	課題分析	授業改善策
	【国語】	
	・平仮名の濁音、半濁音、長音、拗音、促音や助詞の使 い方が定着していない児童がいる。	・繰り返し音読し、正しい文字の使い方を覚えさせる。自分の書いた言葉や文を読み返す指導を行い、誤字・脱字
	・単語や文節を捉えて読めない児童がいる。	に気付かせる。 ・言葉遊び、教科書教材の音読、読み聞かせなどの活動をとおし、語彙を獲得させる。
	・相手に伝わるように声の大きさを考えて最後まで話	・思いを伝えたくなる活動の工夫や、話を受けて感想や質
	すことや音読すること、構成や順序を考えて文章を	問を伝える活動などを設定する。
	書くことが不十分である。	・書く活動に親しみ、書くことの能力を伸ばすために、視 写したり、手本を基にして文章を書いたり、想像したこ とや経験したことを文章で表したりする活動を取り入れ
		る。 ・書いた文章を声に出して読み返したり、友達と読み合っ たりする活動も取り入れる。
	・話を最後まで聞けない児童が多い。 【算数】	・話すとき、聞くときのきまりをおさえて活動する。
	・10までの構成が身に付いていない児童がいる。	・十進法の仕組みを理解しやすいように算数ブロックや数 直線、数表を適宜用いる。
1 年	・計算の仕方を理解しているが、速さや正確さが不十 分な児童がいる。	・カードや練習プリントなどを用いて、計算の反復練習を 繰り返し行う。
	・計算の仕方を理解しているが、速さや正確さが不十 分な児童がいる。また、問題を読み、その場面を具体 的な場面で想像したり、数字に置き換えて考えたり することが苦手な児童もいる。	・問題場面や計算のしくみを理解しやすいように半・具体物の操作活動を取り入れたり、絵や図で表したり、教材を工夫したりする。
	・自分の考えを表現できない児童がいる。	・児童が考えたことを発表する際には、モデルを示し、それらを用いながら書いたり、話したりする活動を取り入れる。・問題文を把握する場面では、音読したり、言葉に印を付
		けたりして、分かっている事柄・問われていることを整理して、立式につなげるよう指導する。
	【生活】	
	・活動に楽しく意欲的に取り組んでいるが、自分から 気付いたり、気付いたことを表現したりすることが苦	・体験したことや観察したことを個人やペア、グループな ど様々な手法で表現させる。
	手である。	・国語での学習を生かし、あらかじめ観点を示してから観察させたり、活動させたりする。
		・体験的な活動を多く取り入れることで、身の回りの自然 や社会に興味をもたせる。

	【算数】	
	・1年生で学習した10までの数の合成と分解、繰り上がりのあるたし算、繰り下がりのあるひき算が十分に習得できていない。また、2年生で学習した時刻と時間の違いを理解仕切れていない児童が多い。 【国語】	・授業の初めに、数の合成と分解、繰り上がり、繰り下がりについて復習する時間を定期的に設ける。時刻と時間については、日頃から時計を見ることを促すことで、その違いや理解を深めさせる。
2 年	・ひらがな、カタカナを正しく読む、書くことがまだ十分でない児童が多い。文章を読む際には、一語一語区切ってよむなど、言葉のまとまりを把握してすらすら読むことが難しい。 【体育】	・授業の中で、音読のドリルを活用したり、物語文などでは、音読を大切にした取り組みを行ったりして、継続的に音読に取り組ませる。
	・自分の動きだけにとらわれてしまって、友達の動きをまねしたり、よいところを見つけたりすることが難しい。また、勝ち負けにこだわりすぎてしまって、運動そのものを楽しめないことがある。	・ペアやグループなどの学習を多く設定し、友達と運動する機会を増やす。また、協力することや、互いの良さを見つけ合うことを価値付けることで、友達と関わることの大切さを理解させる。
	【国語】・新出漢字や既習漢字の定着が図れていない児童が多い。【理科】	・漢字の定着においては、文を書く際に既習・新出漢字を積 極的に使うことを促す。
3 年	・観察カードの絵を丁寧によく見てかける児童が多い。ただし、観察したことを主体的に言葉や文で表現することが難しい。 【社会】	・事前に観察の視点を伝えることで、観察対象の特徴や変化、相違点を部分ごとに比較しながら見取れるようにする。
	・社会的事象への興味・関心がある児童が多い。 しかし、学習したことが実生活に結びついていない 児童が多い。	・できる範囲でフィールドワークを行ったり、お店や農家 の人の話を聞いたりする。その結果、教科書で学ぶこと が実体験としてつながるようにし、生活にも生かされる ようにする。
	【算数】	
	・四則計算の定着は差が大きい。基本的な計算の習得 が不十分なため、答えを求めるのに時間がかかった り正答にならなかったりする。	・習熟度別の授業の中で、基礎となる計算力を育成する。
	・問題の内容を理解したり、問題解決の見通しがもて なかったりすることもある。	・具体物を用いて実感を伴った理解ができる授業を展開する。また、答えの見当をつけてから問題解決にあたる習慣を身に付けさせる。
4 年	【社会】	
	・社会的事象に対する知識や興味・関心に大きな差が	・写真やイラストなど児童がイメージしやすいような教材を
	ある。資料を活用したり、社会的事象に対して自ら 試行したりする力が必要である。	提示したり、ICT 機器を活用したりする。 ・児童の興味関心が高まるような導入をする。
	【国語】	ル圭の宍州内心が同よるよりな守八とりる。
	・相手に伝わるように話したり、相手の話の趣旨をき	・常に聞き手を意識して的確な言葉を使って相手に伝わるよ
	ちんと聞き取ったりする力も十分でない児童がい	うに話したり、話し手を見ながら大事なことを落とさずに
	る 。	聞いたりする習慣を付けさせる。

【国語】 ・敬語の分類、漢字の成り立ちなど言葉に関する知識・ 技能の習得ができていない。また、既習漢字を日常

【算数】

で使っていない。

5 年

- ・小数のわり算における、習得の差が大きい。基本的な わり算の筆算が未習得の児童が多くいる。小数点の 付け間違いや、あまりの出し方、概数への換算が理 解できていない。
- ・体積における単位換算と量感をつかむことができて いない。

【外国語】

・アルファベットの習得ができていないため、書くことへの意欲につならない。

- ・新出漢字を学習する際に、文字のつくりや漢字の意味についてもおさえるようにする。また、言語に関する復習プリントを宿題や朝学習などで実施する。
- ・習熟度別の授業の中で、基礎となる小数の計算力を付けて いくとともに、概数計算のやり方の定着を確認していく。
- ・体積の量感を実感させるために、立体の具体物を用いて実 感を伴った理解やICTの活用による理解ができる授業を展 開する。単位換算は図を用いて単位の関係を理解させる。
- ・毎時間アルファベットに関する帯活動を行う。音と文字を 結び付ける活動から始め、段階的に4線に書く活動を取り 入れるようにする。

【国語】

- ・情報と情報の関連付けの仕方、図などによる語句と 語句との関係の表し方に課題がある。
- ・自分の考えや経験を文章にまとめ、表現する力の個 人差が大きい。

【算数】

6 年

- ・図形の意味や性質の理解に課題がある。
- ・分数のわり算や、分数の倍では数直線から立式する のが難しい。

【理科】

- ・条件制御や相違点を見付けることに課題がある。
- ・心臓などの臓器の名称と働きが一致していない。

- ・タブレット端末を活用して、文章と図や表を結び付け、必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりする
- ・例文を子供たちに示すことで、段落でどのような内容を書 くのか具体的に理解できるようにする。
- ・図形の学習を行う際に、既習内容の図形についての復習を 行ったり、作図の時間を多くとったりする。
- ・図から立式するときの根拠を伝え合い、図と式、言葉を関連付けて考えることができるようにする。
- ・どのようなことを調べるために、条件を変更したのか、実験結果から分かることや分からなかったことを調べるためには何をするのかをノートやタブレットにまとめる時間を確保する。
- ・テスト返しなどの隙間時間や、学期末に復習することで定 着率を高める。